

都道府県名

宮城県

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	仙台市立山田中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	4	1	11	22
生徒数	99	106	121	3	329	

研究の概要

1. 研究主題

個を生かし、確かな学力と学ぶ意欲を高めるための指導の工夫と評価の在り方

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

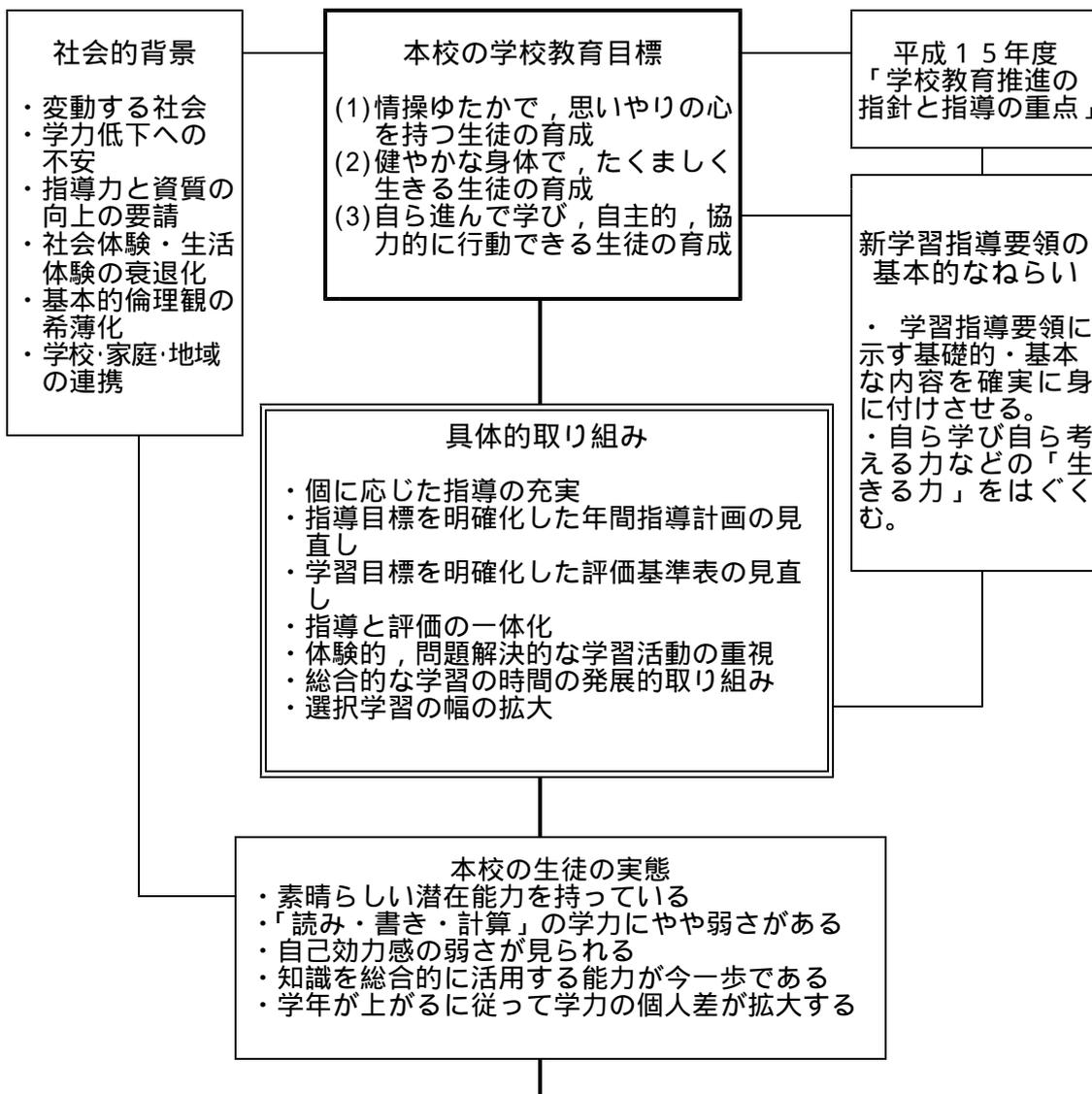
・実施学年 全学年
 ・実施教科 9教科
 少人数指導（対象学年2・3年）：数学科・理科
 平成14年度に「個を生かし、学ぶ意欲を高めるための指導の工夫と評価の在り方」を研究主題として、9教科で絶対評価に対応するために評価基準表を作成し、学習評価を生かした指導に努力した。また、平成13・14年度は数学科において少人数指導に取り組み、習熟度別指導の在り方を探った。これらの研究を土台として、今後は数学科・理科において生徒の習熟度に応じたきめ細かな指導の一層の充実と、平成14年度の評価活動の見直しを行い、さらに学習評価を生かした指導法の改善を図る。また、個に応じた指導については9教科を対象とする。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ（主な取組） 各教科の学力の捉え直しと、数学科・理科の少人数指導の在り方 研究の見通し（仮説） ・各教科において学習目標を明示して基礎的な知識と技能を定着させる指導方法と指導体制を工夫・改善すれば、生徒は学ぶ意欲を高めて基礎学力を身に付けて、「確かな学力」を向上させることができるであろう。 ・生徒の思いや願いに応える場面を取り入れた学習活動において、個に応じた学習の過程を大切にされた指導の工夫・改善を行えば、生徒は学習に喜びを感じ学ぶ意欲を高め、基礎学力を身に付けて「確かな学力」を向上させることができるであろう。 ・基礎・基本を確実に定着させるための教材の開発を行えば、個に応じた指導方法の工夫・改善が図られて、生徒の学習意欲を喚起し、「確かな学力」を向上させることができるであろう。 ・目標を明確にした学習活動を通して、生徒自身の学びの振り返りが次への動機付けとなる評価の工夫を行えば、生徒は達成感や有能感を感じて学ぶ意欲を高めるであろう。</p> <p>研究の内容・方法 ・教科の学力について明確にする。 ・指導目標・学習目標を明確にして年間指導計画を改善する。 ・評価基準Cの生徒に対しての手だてを計画した「評価表」に改善する。 ・授業研究を実践し、結果を考察する。 ・生徒と保護者への説明責任について改善を図る。 ・コンピュータを活用した通信票作成の改善を図る。 ・総合的な学習の時間・評価・選択教科・道徳の共同研究を進める。 ・研究の成果を中間報告としてまとめる。</p>
--------	--

平成16年度	<p>テーマ 個を生かし、確かな学力と学ぶ意欲を高めるための指導の工夫と評価の在り方 研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科カリキュラムと前年度作成した評価基準表・評価計画を見直すとともに、発展的な学習や補足的な学習の内容と位置づけを検討し、基礎・基本を確実に定着させるための多様な学習教材の開発と有効性の検証をする。 ・個に応じた指導のための指導方法・指導体制について、数学と理科における少人数指導や習熟度を考慮した指導のための少人数によるいくつかの指導体制を検討し、その有効性を検証する。 ・絶対評価による前年度の評価・評定の出し方を見直し、学習目標の到達度評価の具体的方策を検討するとともに、生徒・保護者への説明のあり方を改善する。 <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業研究を実践し、結果を考察する。 ・生徒と保護者への説明責任について改善を図る。 ・コンピュータを活用した通信票作成の改善を図る。 ・総合的な学習の時間・評価・選択教科・道徳の共同研究を進める。 ・研究の成果をまとめる。
--------	---

(3) 研究推進体制 *フロンティアスクールとしての実践研究組織図



【研究主題】
 「個を生かし、確かな学力と学ぶ意欲を高めるための指導の工夫と評価の在り方」

【研究目標】
 学習指導要領のねらいとする「確かな学力」の向上のために、個に応じた指導方法と指導体制の工夫・改善、基礎・基本を確実に定着させるための教材の開発および自ら学ぶ意欲を高めるための評価の在り方について検証する。

【研究仮説】

- 1 各教科において学習目標を明示して基礎的な知識と技能を定着させる指導方法と指導体制を工夫・改善すれば、生徒は学ぶ意欲を高めて基礎学力を身に付けて、「確かな学力」を向上させることができるであろう。
- 2 生徒の思いや願いに応える場面を取り入れた学習活動において、個に応じた学習の過程を大切にしながら指導の工夫・改善を行えば、生徒は学習に喜びを感じ学ぶ意欲を高め、基礎学力を身に付けて「確かな学力」を向上させることができるであろう。
- 3 基礎・基本を確実に定着させるための教材の開発を行えば、個に応じた指導方法の工夫・改善が図られて、生徒の学習意欲を喚起し、「確かな学力」を向上させることができるであろう。
- 4 目標を明確にした学習活動を通して、生徒自身の学びの振り返りが次への動機付けとなる評価の工夫を行えば、生徒は達成感や有能感を感じて学ぶ意欲を高めるであろう。

【少人数指導の研究内容】(数学・理科)

- 1 教科カリキュラムと前年度作成した評価基準表・評価計画を見直すとともに、発展的な学習や補充的な学習の内容と位置づけを検討し、基礎・基本を確実に定着させるための多様な学習教材の開発と有効性の検証をする。
- 2 個に応じた指導のための指導方法・指導体制について、数学と理科における少人数指導や習熟度を考慮した指導のための少人数によるいくつかの指導体制を検討し、その有効性を検証する。
- 3 絶対評価による前年度の評価・評定の出し方を見直し、学習目標の到達度評価の具体的方策を検討するとともに、生徒・保護者への説明の在り方を改善する。

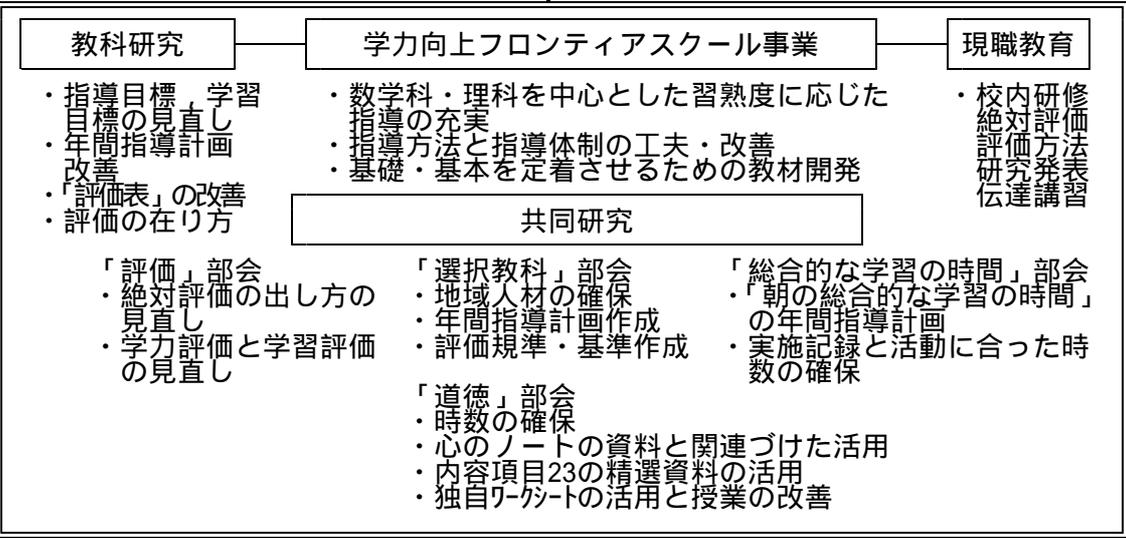


図1 研究全体構造図

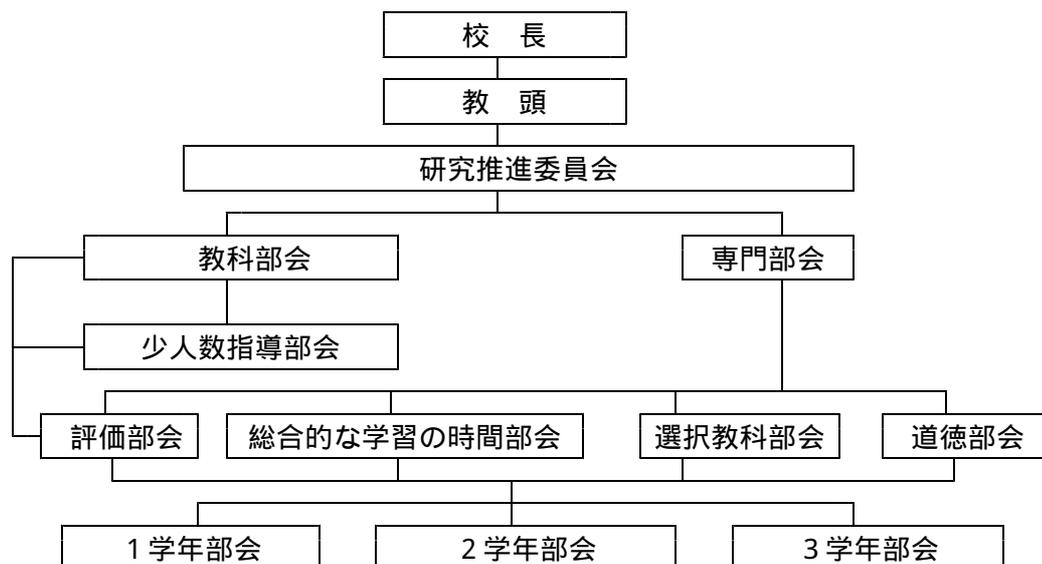


図2 研究組織図

平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

- ・指導案検討会 平成15年10月17日(金)実施
少人数指導 数学科・理科
- ・研究授業 平成15年11月20日(木)実施
少人数指導 数学科・理科

数学科の成果

・成果 数学科は習熟度別に2コース編成した。十分なガイダンスにより生徒の希望によるコース編成はおおむね妥当な習熟度別編成ができた。個に応じた指導を目指して、コース別に検討し、材料もコース独自に工夫して、指導案を作成し実践した。

理科の成果

・成果1 <等質集団少人数指導>

天文分野の学習では天文観測会の実施、天文ルーム(ステラシュミレーション使用)を二つ設置し、体験的な学習活動を実践する。少人数指導の視点として、習熟度別ではない男女3名ずつのグループを作り、「気づきあい」「学びあい」を通じた考察活動を行った。全員の学習状況の場面(机間指導の充実)を意図的に設定し、学習を振り返る場面を設定することできめ細かな指導を目指した。

学習形態について、導入はTTによる一斉授業で行い、次に天文ルームに移動し、少人数による学習活動を行った。

・成果2 <つまずきと指導の手立て>

指導案には、留意点として予想される「つまずき」と「指導の手立て」を明記。生徒の「つまずき」をあらかじめ予想し、その手立てを工夫する。また、意図的に「つまずかせる」ことで支援の有効性を高める。

2. 今後の課題

数学科の課題

・課題1 <分かりやすい学習指導案づくり>
指導過程は、他教科教師が見ても分かるような指導案づくりをする。例えば、図を使って分かりやすくする工夫が必要である。また、ねらいについては、習熟度別の指導であっても、到達するまでのプロセスと材料が違っただけで、到達するところは同じにする。

関心・意欲・態度については導入のみで見えてしまいがちであるが、その場で身につけたものを、次に生かそうとしているかなども見なければならない。さらに、指導案に生徒の予想される反応を示し、どのような場面で何を見るのかを工夫しなければならない。

・課題2 <個に応じた指導>

使う材料をどのような工夫をすれば良いのかを考え、授業の場面で個を生かすために、どのような手立てをするか、気づいたことをノートに書かせるなどしてみる。指導過程の中で、じっくり考えさせたりする場面を設け、どこでつまづいているのか等を知る必要がある。導入・展開・まとめのどこの場面で設けるか、この単元で何を身に付けさせたいのかをきちんと考えること。通常は材料が同じでステップを変える工夫をすること。

・課題3 <教師の説明と生徒の学び合い>

少人数指導の授業においては、教える指導のきめ細かさだけでなく、生徒同士が話し合いながら進める、学び合いの活動を大切にする。

理科の課題

・課題1 <指導体制の確立>

学年分掌、指導体制の展開方法、年間を通して同じメンバーで指導、分野別の交代制、学期交代制、3人体制の有効活用

・課題2 <等質集団による少人数指導の実践>

学習形態、指導方法および教材の工夫

・課題3 「つまづき」のカリキュラムの作成

校内研究についての課題

学力向上フロンティアスクールとして、学力の捉え方や向上のためにどうしたらよいか検討する必要がある。学力向上のためには、授業実践力を高め、子どもの声をどう拾うか、いかに共有化していくかがポイントとなる。また、学力を捉えるには生徒の実態を把握し、焦点化して取り組んでいくことが大事である。各教科でどのように具体化するかは日々の授業の中で検討していく必要がある。生徒がつぶやけるような支持的雰囲気をつくり、声を拾うためには、良い授業を見て参考にすると良い。自分から気付いたことは忘れにくいので、そういう場面をもったり、すごいと思うことに触れさせたりして、意欲をもたせる授業づくりのための研修が必要である。今後は、さらに個に応じた指導を深められるようにすると共に、小学校との連携が重要になる。

学力把握のための学校としての取組
平成15年度 評価の時期と保護者への通知計画

期	月	評価の時期	保護者への通知の機会	内 容
1 学 期	4月	始業式 4/8	授業参観・PTA総会 学年P総会・学級懇談	学校経営方針・教育目標・ 2学期制 学年学級経営方針と課題・ 年間行事
	5月	入学式 4/9 総合学習週間		
	6月	中間考査 6/26・27	保護者説明会 5/23 【あゆみ】	教育課程について、評価につ いて 中間考査の結果とまとめ
	7月	《家庭訪問 7月7日～11日》 子どもの学習と生活、通信票説明 生徒と保護者の思いや願い		
			授業参観・学年P総会 7/17	学年学級経営状況 子どもの学習と生活 夏休みの過ごし方
	8月	夏休み 7月21日～8月25日		
	9月	3年実力考査 8/27 1学期期末考査 9/24・25・26	【あゆみ】 【通信票】	期末考査の結果とまとめ 子どもの学習と生活、成長の 様子
10月	終業式 10/10			
秋休み 10月14日・15日				
2 学 期	10月	始業式 10/16	教育相談11/10～11/14 【あゆみ】	子どもの学習と生活、成長の 様子 学年学級経営状況、保護者の 願い把握 中間考査の結果とまとめ
	11月	3年実力考査 10/17・20 11/5 進路説明会 11/7 体験学習 11/18		
	12月	2学期中間考査 11/26・27		
			3年教育相談12/1～12/5	進路相談
			授業参観・学年P総会 12/12	学年学級経営状況、冬休みの 過ごし方 子どもの学習と生活
	冬休み 12月24日～平成16年1月7日			
1月	3年実力考査 1/9 学年末考査 2/13・16・17	【あゆみ】	*私立高校入試 学年末考査の結果とまとめ *公立高校入試3/5	
2月	卒業式 3/9			
3月	終了式 3/24	授業参観・学年P総会 3/19 【通信票】	学年学級経営について総括と 反省 新年度計画 子どもの学習と生活、成長の 様子	

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・平成16年度教育課程保護者説明会
日時：平成16年4月29日(木)午後1時(予定)
場所：山田中体育館
対象：保護者および地域住民
- ・平成16年度(第二年次)公開研究授業
日時：平成16年11月19日(金)
場所：山田中
対象：近隣小中学校および地域住民
教科：数学科・理科(少人数指導)
技術・家庭科(技術科の授業), 英語科, 他
- ・平成16年度研究集録発行
対象：9教科・特別支援教育および共同研究(総合的な学習の時間・評価・選択教科・道徳)

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無